

認定心理士の会から

新刊連動講座、司会者登用

新刊連動講座は認定心理士の会と各出版社が共同で開催しているシリーズ企画で、日本心理学会会員の著者が書いた、注目が集まる本を題材にしたオンライン講演会です。2023年7月以来、23回開催され、2025年度にすでに7回の開催が予定されています。

本講座では、著者から本を書いた際のねらいや、熱い想いなどが聞けます。また、著者に直接質問する機会もあります。割引購入のご案内もあります。多いときには200名以上から参加予約が集まる人気企画です（自画自賛）。本稿読者の中には、何度も参加したことがある!という方もいらっしゃるかもしれません。ついには昨年（2022年）の日本心理学会第88回大会にもはみ出して、対面でも開催されるまでになりました。企画していただいた出版社も多岐にわたり、登場順に福村出版、北大路書房、新曜社、共立出版、勁草書房、有斐閣、ちとせプレス、誠信書房、かもがわ出版、金子書房、京都大学出版会、医学書院、東京大学出版会などにご協力いただいています。

本講座は通常は出版社の編集担当の方に司会をしていただきますが、著者とサイエンスライターとの対話形式で開催したこともあります。歴代著者や出版社の方、参加者さんらにうかがったところ、著者による講演形式だけでなく、対談形式としても面白いかもしれないというご意見をいただきました。確かに、顔が見えない聴衆に向かって約1時間話し続けるよりも、インタビューに答えるというほうが気が楽という著者もおられました。幸いzoomによるオンライン開催ですので、参加者からの質問も出やすい雰囲気があります。そういう司会・インタビュアー候補をお持ちの著者・編集担当者さんは、企画申し込みの際に事務局 新刊連動講座お問い合わせ jpa-book@psych.or.jp までお知らせ下さい。

（認定心理士の会運営委員会委員長 河原純一郎）

若手の会から

ママPh.D.のたまごのその後（経過報告）

「私は現在、博士後期課程に在籍する学生であると同時に、2歳と4歳になる娘たちの母親でもあります。」という書き出しで初めてこのコーナーを執筆したのは本誌100号。早くも2年半が経ちました。私は学位を取得し、娘たちは4歳と6歳になりました。ライフステージや対応すべき課題は変化していますが、依然として目の回るような日々を送っています。

ところで、私は若手の会で広報担当を務めています。現在、広報担当の間で広報の在り方についていま一度協議しようという動きがあり、その中で「若手研究者の一日などを何らかのメディアで紹介したら面白いだろうか?」といったアイデアも挙がっています。個人的にはとても楽しげに感じ、「あの人の意外なルーティーン」「みんなのおすすめ研究ハック」などなど、勝手なイメージが頭の中を駆け巡ってしまいました（全てのアイデアは現在協議段階にあり、実現については未定です）。今私が自身の活動を紹介する立場になったら、発表物のタイトルはさしずめ「研究者の就職活動:30代前半ママ研究者の場合」といったところでしょうか。そこには四苦八苦し、結局は解決の兆しが見えない様子があるかもしれません。

けれども、私は若手研究者の皆さんとのコミュニケーションを強化・促進することで、私の苦い思いまでもが誰かを孤独から救い、勇気づけることがあるなら、これほどうれしいことはないと思っています。皆さんにおいても、若手の会にしてほしいことやご意見などがありましたら、お気軽にご連絡をいただければと思います!

最後に、2年半前のこのコーナーの締めを引用して締めの言葉としたいと思います——「不安に襲われ、挫けそうになることもあります。明日は明日の風が吹く。そう自分に言い聞かせながら、今も机に向かっています。」（若手の会幹事 瀧川諒子）